

こころの便り

第213号

平成29年12月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六ハ一十二
株式会社新宮運送グループ
代表/木南 一志
kinimami@shingu.co.jp
電話079-1175-1212

数字を追うから

早くも師走を迎えて、今年も終わりとなっていきます。一年の節目、大掃除だけで終わらずに、大切に振り返りながら来る年に備えたいものです。

日産自動車に始まり、神戸製鋼・三菱マテリアと次々に不祥事が出てきて、大企業が消えていくような恐怖を覚えます。以前には、東芝やシャープ、タカタという社名もありました。何故このような国になってしまったのか。私は、答はひとつ、グローバル化という海外企業に合わせたルールを適用したことだと考えています。三か月に一回の決算、その四半期という短いスパンで答を出すために目先の事ばかりに追われるようになってしまったのだと思えるのです。

その考え方は、会社は株主のためにあって、利益を追求して配当という形でお返しをするというものです。社員は利益を出すために働いて、儲ければ高給を取り、待遇も良くなっていく。人のことなど構うことなく、自らの報酬や肩書を高めて企業を渡り歩くことで幸せを享受する。

日本人には、まねのできない厳しさを越えていかねば世界に太刀打ちできないということがその理由です。

本当にそうでしょうか。私は違うと思います。日本にしかできないジャパンスターダードがあってもいいのではないのでしょうか。

過去には、日本的経営が高い評価を受けたこと

がありました。その一つが終身雇用。ひとつの会社で働きぬく人は今でも多いのではないのでしょうか。会社の評価の中にも社員の勤続年数というのが信頼性に代わるモノサシとして見られてはいないでしょうか。また、年功序列という制度ではないルールが先輩を立てることや経験を教わるということにつながっていくと思えるのです。

仕事を通じて人間を育てるという文化が日本にはあります。長い年月をかけてしか得ることのできない技術、人間性、品格など、たくさん隠された「人を大切にする」という温かな心が仕事という厳しい現実を通じて、互いに助け合うことや叱咤激励するというチームワークなどを不知不識のうちには伝えてきたのです。

数字は結果として生まれてくるモノサシです。厳しい分析は必要ですが、数字のために仕事をしはけません。利益が大切なことは当然ですが、立派な社員がたくさんいる会社だけが立派な会社になることができるのです。

世界で認められていく立派な人が、口先で誤魔化したり、目先だけでいいのだと将来を考えることもなく答を出すことはありません。

まず、自分から、気づいたら実行できる人を目指して行動していきましょう。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拝

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ方々の力で、皆様にお届けさせていただいております。

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第四課 學國一致

明治三十七八年戦役は、我が大日本帝國が國家の安全と東洋の平和のためにロシアと戦つて、國威を世界にかざりかけた大戦争であります。明治三十七年二月十日に宣戰の詔が下ると、國民は皆一すぢに大御心を奉體して、國の爲に盡さうとたく決心しました。

出征軍人の元氣は盛なもので、忠勇の美談はあげつくされない程ありました。病をおし、傷をかくして召集に應じた在郷軍人もあり、三人の兄が皆戦死して残つた末の弟が志願兵になつた家もありました。戦地では雨霰と飛來る彈丸の中で、落ちつきはらつて自分の務を盡す者もあれば、敵彈のために負傷しても、内地へ送りかへされることを拒んで、「ぜひ今一度戦線に立たせて下さい。」と願ふ者もありました。

戦場に出ない國民も皆一致して忠君愛國の誠を盡しました。働きざかりの壯丁が出征した後は、老人も婦人も少年も皆大決心で、家業につとめ、儉約を守つたので、全國の貯金の高は却つて戦前よりも増しました。戦費のために租税は平時よりも大そう多くなつたが、國民は喜んで負擔して納税を怠る者などはありませんでした。軍人が出征する時には、各地の人々はまごころをこめて送り迎へをしました。戦地へは慰問袋や手紙を送り、軍人の家族・遺族にはいろ／＼と行届いた世話をしました。出征者の妻は心を引きしめて、家事をととのへ、子供を育てて、戦地の夫に心配をかけないやうにしました。又身分の高い婦人は自分で繻帯を造つて、負傷者に送り、或は進んで篤志看護婦となつて、親切に傷病者の世話をしました。

明治天皇御製

國を思ふ道に二つはなかりけり

軍のにはに立つも立たぬも